

平成19年度 秋期 上級システムアドミニストレータ 午後Ⅱ 出題趣旨

この出題趣旨は、独立行政法人 情報処理推進機構 情報処理技術者試験センターが公表しているものです。著作権は、同センターにありますので、その点ご注意ください。

問1

出題趣旨：

経営環境の変化に伴い、非効率になっている業務運用を改善するためには、業務の見直しを実施し、新しい業務プロセスの機能要件を明確にした上で、現在の情報システムの機能のどこに問題が存在するかを分析し、情報システムの機能の追加や変更、又は新たな情報システムの導入を検討する必要があります。

本問は、システム利用部門として、非効率になっている現行の業務プロセスを見直し、明確になった新しい業務プロセスの機能要件を実現するため、現行の情報システムをどのように分析し、対策を講じたかの具体的な論述を求めている。論述を通じて、上級システムアドミニストレータに求められる、受験者の経験に裏打ちされた分析能力、改善策立案能力、問題解決に向けた主体性などを評価する。

講評：

問1(経営環境の変化に対応した情報システムの見直しについて)では、業務プロセスの見直し、その背景となった経営環境の変化、及び業務プロセスの見直しに伴う情報システムの改定についての論述を期待したが、経営環境の変化と業務プロセスの見直しの関連性が十分に記述されていない論述や、情報システムの見直しを伴わない業務効率向上のための業務改善の論述が多かった。

問2

出題趣旨：

安い海外製品の国内流入、消費者のインターネットを活用した製品情報比較によって、国内の企業は品質だけでなく価格競争力をつけないと成長を維持していくことが困難である。コストを低減し、収益力を上げ、価格競争力をつけることは、企業にとって重要な課題である。

本問は、利用部門において、現状のコスト構造を把握して、売上データとコストに関するデータをどのように分析し、コスト低減策を立案したか、その実行のための提言について具体的な論述を求めている。データ活用を伴わないコスト低減策やシステム導入だけの論述は、出題趣旨にそぐわない。論述を通じて、上級システムアドミニストレータに求められる、受験者の経験に裏打ちされたデータ活用能力、分析能力、改善策立案能力、経営に向けて提言を行う主体性などを評価する。

講評：

問2(コスト低減のためのデータ活用について)では、データ活用分析とコスト低減策のポイントを押さえた論述が多く、業務経験のある受験者にとっては比較的取り組みやすい問題であったと思われる。一方、単なる業務改善やシステム導入の評価に関する論述も見られたが、コスト低減を目的にしたデータ活用とコスト低減策を、経験に基づいて具体的に論述してほしかった。

問3

出題趣旨：

社内外の多くの人間が利用したり、関係したりする情報システムでトラブルが発生すると、ビジネス上非常に深刻な被害を引き起こすことがある。情報システムの安定稼働に向け、利用部門とし

て情報システムの構築段階から主体的にかかわり、万全な対策を講じていく必要がある。

本問は、こうしたトラブル対策について予防策に加え、発生時の対処や緊急体制、代替案など、自らの経験を基にした、情報システム構築段階からの取組み内容の具体的な論述を求めている。論述を通じて、本番稼働状況を踏まえての対策に対する評価や改善なども含めた一連の活動における、上級システムアドミニストレータに求められる分析能力、洞察力、改善策立案能力などを評価する。

講評：

問3(トラブル対策に関する情報システム構築段階からの取組みについて)では、利用部門としてのトラブル対策の経験に基づいた、具体的な取組み内容と工夫に加えて、適切な評価や課題を記述していた論述が多かった。利用部門の立場からの取組みの論述を期待したが、システム部門の立場としてシステム面での対策が中心となった論述も見られた。

全体の講評：

前年同様、多くの受験者が上級システムアドミニストレータの立場や役割を踏まえ解答しており、この点での受験者の理解は浸透してきた。約半数の受験者が問1を選択し、次いで問3、問2の順で選択された。各問とも、受験者の経験に基づいた具体的な論述が多かった反面、設問で解答を求めている項目に対して、十分にポイントを押さえた解答となっていない論述も散見された。

注：この出題趣旨に関するメールでのご質問には、応じかねます。あしからずご了承ください。